



福井大学教育学部
附属義務教育学校

No. 2
令和7年7月11日

学校だより

「子供と教師が共に探究し協創する学校文化」をめざして
令和7年度 附属幼稚園・義務教育学校教育研究集会 開催

前期課程 副校長 板垣 英一

6月13日(金)に開催された今年度の教育研究集会は、子ども科学教育全国大会を兼ねていたこともあり、県内外から約600名(シンポジウムのオンライン参加者を含む)の参加があり、本校の研究に対する関心の高さを改めて実感しました。

当日は、生徒会執行部によるオープニングと5年生以上の子供たちによるポスターラウンドから始まりました。ポスターラウンドは昨年度から始まった取り組みであり、子供たちの「参加してくださる先生方とテーマをもとに直に語り合いたい」という思いからスタートしたものです。

前期課程から6グループ、後期課程から33グループが、「数学を学ぶ真意とは」「問いから問いをつくる」「ハマる考察 活かす省察」など、教科や社会創生プロジェクトでの学びに関するテーマで熱く語り合いました。子供たちと語り合った参観者からは「子供が自分なりに学ぶ意義を捉えて、言語化していることがいい」「調べた知識ではなく、自分たちで議論しあって、それぞれが見つけた答えを語っていたのが印象に残った」などの感想をいただきました。



執行部によるオープニング



ポスターラウンドの様子



続く公開授業では、前期課程8授業、後期課程10授業を公開しました。どの授業も仲間と話し合い、考えていく姿が見られました。「児童が一生懸命、自分たちでルールを考えている姿を見て3年生でもこんなことができるのだと感じた」「小さい時から探究を積み重ねているからこそ育っているのだと思った。これからどんな姿になっていくのか楽しみ」「生徒がずっと話し合っている姿を見てすごいな、学びに向かい続けているなと思った」など、授業中の子供たちの探究する姿やこれからの子供の学びについて、意見や感想を多数いただきました。

また、前期課程の授業終了後には参観された方々と子供たちがその時間の学びについて語り合う時間を、分科会では後期課程の子供たちと教科の学びについて語り合う時間を設け、子供たちも参観者の方々も学びそのものの捉えについて深め合う場をもちました。「子供たちとストレートに意見を交流できる時間はとても貴重な経験となった」「大人と対等に真摯に向き合って考え

を述べてくれる生徒たちから学ぶことは大きかった」など、子供たちと直に語り合うことで、教師自身もまた貴重な学びを得ることができました。



公開授業の様子



参観者と子供たちの語り合う場（左：前期課程授業後 右：分科会）



シンポジウムでは、シンポジストの先生方（学習院大学・秋田喜代美教授、慶應義塾大学・鹿毛雅治教授、千葉大学・山下修一教授）から、ポスターラウンドや授業での子供たちの姿をもとに、以下のような価値づけをしていただき、多くの示唆を提示していただきました。

○探究を深める活動とそれを支える学校文化

- ・「個の探究」に没頭することが周囲の子の関心を引き、結果的に対話が生まれ、「協働探究」につながっていく。
- ・授業全体が「スローリビング（探究対象をゆっくりじっくり丁寧にみること）」が可能な流れになっており、これが探究を深める上で重要になってくる。
- ・探究を進めていく中で、子供自身による「学びの価値」の言語化、自分たちの言葉で答えを見出すことは大切である。
- ・探究活動を「活動あって学びなし」で終わらせないために、自分の言葉でまとめ、次につなげるプロセスが大切である。
- ・この研究集会が教師だけでなく、子供にとっても自らの学びを振り返り探究する場として位置づけられていることが、この学校の大きな特徴である。



全体会・シンポジウムの様子

○子供主体の協働探究の中での教師の役割

- ・教師もまた授業の「主体」であり、子供たちの学びのプロセスを想定した「学びのストーリー」をデザインする役割を担っている。
- ・教師が学びの栄養が潜んだ教材を見つけ、子供たちが試行錯誤する中で新たな概念の必要性に自ら気づくような、見通しを持った授業設計をすることが大切である。
- ・子供たちの探究が自由奔放になるのを防ぎ、重要な学びに繋げるために、教師が方向付けを行う「アンカリング（錨を下ろすこと）」の役割を担うことが大切である。
- ・協働学習が成立するために、教師は一人一人が自分の考えを持ち寄れる「探究の文化」と、失敗を恐れずに発言できる「心理的安全性」を保障する役割を担っている。
- ・生成 AI 時代において、五感を使い、非効率に見えても実際に試行錯誤する「人間の学び」の価値を再確認する必要がある。

今年度は、研究主題を「探究し協創するコミュニティ」、研究副題を「学びを共に練り上げるプロセスをデザインする」とし、実践研究を進めています。

今回の教育研究集会を通して、参観して下さった方々や子供達との語り合いから、多くの貴重な学びを得ました。今後も本校が大切にしている「協働探究」を深めていくために、子供主体の学校文化を子供たちと共に創っていきたいと強く感じました。